

伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 (①修03-10-5/5)

目 的

本プロジェクトでは文化財修復材料について、製造法・適用法などを調査研究し、適正な文化財修復を行うための基礎を築くことを目的とする。一方、近年、文化財修復に使用されるようになった合成樹脂に関して、その使用事例を再確認する。さらに、これらの調査や研究から得られた結果をもとに、現在の環境も踏まえ、より文化財修復に適した、技術や材料を開発することをも目的とする。

成 果

漆などの建造物の塗装材料に関する基礎資料の蓄積を図った。合成樹脂に関する調査では、過去使用した樹脂の劣化などの問題点解決に向けた基礎実験を行った。また、研究所が所蔵する過去の合成樹脂を用いた修復事業の資料の分類整理作業では、データベースの目録作成についてはこれを終了させた。紙本絹本文化財の修復材料に関しては、裏打層の開発、表具裂見本目録の作成、和紙の調査を行った。以下、具体的な実績を示す。

1. 建造物に使用する塗装材料の耐候性向上に向けた基礎実験を進めた。
2. 掛軸の裏打材料として三軸織物を使用した新たな裏打層の開発を行った。
3. 表具裂見本のデジタル目録を作成し、データベースの基本構成を作成した。
4. 劣化したポリビニルアルコールの現地調査および再現実験を行い、劣化機構についての研究を行った。
また、酵素を用いたポリビニルアルコールの分解除去の手法を試験し、良好な結果が得られた。
5. 研究所が所蔵する過去の合成樹脂を用いた修復事業の資料の分類整理、目録作成、ネガフィルムのデジタルデータ化は継続してこれを進め、データベースの目録作成についてはこれを終了させた。
6. 「膠(I)」というテーマで、2011(平成23)年6月21日に東京文化財研究所の地下会議室で第4回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催し、計40名の参加を得た。
7. 手漉き和紙産地の現地調査を行った。

研究会の開催 1件

- ・第4回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会「膠(I)」 東京文化財研究所 10.6.21

学術雑誌等への掲載論文数 3件

- ・加藤雅人、君嶋隆幸、酒井良次、川野邊渉「三軸織物・紙貼合シートの特性—紙本絹本文化財の裏打を想定して—」『保存科学』50 pp.83-90 11.3 (ほか2件)

学会、研究会等での発表件数 3件

- ・岡田祐輔、平井利博、藤松仁、滝沢辰洋、川野邊渉、早川典子、坪倉早智子、中條利一郎「顔料剥落止めとして利用されたポリビニルアルコールの白化原因と再現」『文化財保存修復学会32回大会』長良川国際会議場 10.6.12-13 (ほか2件)

報告書の刊行 1件

- ・『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2010年度』東京文化財研究所 127p 11.3

研究組織

- 川野邊渉、北野信彦、早川典子、加藤雅人、山口加奈子、川端冴子(以上、保存修復科学センター)、舘川修、本多貴之、坪倉早智子(以上、客員研究員)